



石川 眞 男

JAしばね支店の場所は芝根地区住民の よりどころ。公民館機能を持つ施設の建設を いざれ対応したい

町 芝根地区のよりどころという認識はある

Q JA佐波伊勢崎
しばね支店周辺
は、小学校・プール・
保育所のほか老人施
設・医療機関まである。
今後の大介護時代に向
けた健康推進地域とし
て、公民館機能を持つ
施設の建設を求める。

している段階である。
まずはことしの花火大
会を盛大に成功させ、
その後、花火大会実行
委員会により候補地を
決定していく。随時
広報等でお知らせした
い。

条例については、前
橋市の実施状況をはじ
め、県内市町村の動向
を注視しながら検討し
ていきたい。

Q 発注者（町）に
とつても受注者
にとつても、公契約条
例の制定は必要と見え
るが。

Q 公契約で働く
労働者への対応の二つ
として、町には建設工
事の最低制限価格制度
及び低入札価格制度が
ある。これらは、工事
の品質確保及び従業員の
適正賃金確保のため
に必要な制度であり、
今後も実施していく。



JA佐波伊勢崎 しばね支店

Q ことは、現在
地で行う最後の
花火大会となるが、来
年は降はどどこで、ど
のような規模で開催す
るのか。

候補地を調査

地域の担い手となる 若い世代の転入促進を図るべきだ

町 定住促進対策検討プロジェクトチームを中心に
検討する



高橋 茂 樹

Q 人口減少問題は、
玉村町にとって
重大な課題である。そ
れを解決するために
は、若者の定住が必要
だ。町はどのような対
策を考えているのか。

Q 若い世代の職
員及び女性職員を中心
に構成された「定住促
進対策検討プロジェクト
チーム」を活用し、
具体的な対策を検討す
る。

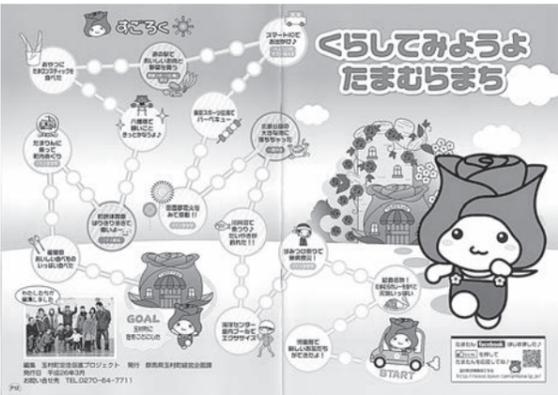
Q ことし9月に、
東毛広域幹線道
路が暫定2車線で開通
する。開通後の沿道開
発をどのように考えて
いるのか。

Q 町全体のバラ
ンスをしっかりと考え、
都市の発展と農業との
調和を図りながら、適
切な土地利用を図って
いく。

Q 人口
約3
万7000
人の玉村町
として、ま
ち機能を充
実させてい
くべきだ。

Q 町が活性化す
るには、中心市街
地が活気づくような対
策を図るべきではない
か。

Q もつ一つの産業で
ある農業をどの
ように活用していけ
ば、町は活気づくか。



Q 利
便性の高い
まちをつく
るため、東
毛広域幹線
道路と高崎
玉村スマー
トICを生

かした土地利用計画の
作成、文化センター周
辺地区への住宅市街地
形成、「たまむら道の
駅（仮称）」の建設な
どを計画している。

Q 現在、町内に
は明確な中心市街地と
呼べる拠点が存在して
いない。3月に策定し
た役場周辺の高度利用
計画では、国道354
号沿いの桐生信用金庫
跡地を「（仮称）まち
なか交流館」として、
歴史資産と連携した
居場所づくりや交流の
場づくりを計画してい
る。



今後宅地開発が進められる文化センター周辺地区

人口減少を食いとめる施策の推進を

町 定住希望者に宅地を提供する



宇津木 治 宣

Q 人口減少時代が到来
した。当町では、移
り住んだ世代が高齢化を迎
え、次世代の町外流出がこ
の傾向に拍車をかけてい
る。

Q 人口流出の理由は、
住宅用地がないことが原因
だ。そこで、定住促進施策
として、希望者に宅地を提
供する。文化センター周辺
に、200戸の宅地開発を
進めている。

Q 雇用環境の改善を。
また、市街化調整区域の
性格を変えない範囲で開発
を認める施策を検討する。

Q 「子育てするなら玉
村町」にふさわしい、
子育て環境の充実を。

Q 歴史ある資産を生か
したまちづくりなど、
情報発信に取り組みべき
だ。

Q 給食費の無料化で、
子育て支援を。
Q 受益者負担の原
則のもと、できることは最
大限補助し、安全でおいし
い給食を提供していく。

Q 玉村町のイメージ
や知名度を高めることが、
町の活性化につながる。4
月に定住促進用のパンフ
レットを作成し、町内外の
施設に配布している。